

親子の絆 × 地域の絆

その1
～親子の絆～
取材・11月18日

子育てと親育ち。子どもが
3歳なら親だって3歳。
肩の力を抜いて。



本年度は情報発信。

親子の関係をきっちり築く。
それは土台。

今後、サロンの事業や、身近な相談事業も発展させたい。子育てに對してちよつとアンテナ高いぞつていう近所の人が増えていけばいいし、そこをつなぐのが私たちの仕事です。(田)

それが無いのにその上に教育とか色んなものをいくら積み上げても将来崩れてしまう。(松)

特集 ふれあいのあした
地域、家庭、子どもたち

子育ては喜びや発見があって、楽しいこと。でも、社会情勢や生活構造の変化でお母さんだけでは、子育ては無理な状況があるといわれるようになりました。

「だからこそ地域でちょっと後押ししてあげることが必要。だって子どもは社会の子なんだって思いますから——。」

本年度、安曇野市で「家庭教育支援チーム」が発足しました。家庭の教育力向上を狙いに文部科学省が設けたモデル事業の一環で、豊科北小学校区をモデル区として、チームの主婦2人が活動を開始しています。ミニコミ誌の編集や学習会の企画などを通じて、親たちの悩みを把握し、解決の手助けをしているお2人。親子の絆についてざっくばらんに対談していただきました。

捨てたもんじゃやない。
子育てはつながって
いないといけないよね。

あそこに行けばこんな人がいてあそこに行けばこんなことやつてるとか、子育てに関して探せば結構たくさんあるし、支援したい人もたくさんいるつて分かった。(松)

核家族が多くなって、お母さん一人が子育てを家で抱えていてはいけない。(松)



家庭教育支援チーム
松澤 雅子さん
(51・豊科高家)
3人の子どものうち2人は成人になりました。

「親」って字は、親が木に立って見てるんだけど、逆に子どもにも見られてる。その通りだよな。

親になりきれていない親。
いいんですよ。
一緒に成長していけば。(松)

情報や子育ての教科書に、振り回されたり、人と比較したり。そんな中で、
うちはこれでいいんだつて思うこと。お母さんがストレスためると子育ては苦しいものになっちゃうから。(田)

『つ』のつくまでの子育て。

家庭ひまわり講座での角田春高先生(愛知学泉短期大学教授)の言葉。印象に残りました。9つまでは大事な時期。あとは自分で育っていく。(松)

親子の信頼関係、
たっぷり接して
心を与えて欲しい。

子どもにかけられる言葉で、
自分が評価されてる
ような気がして、
苦しくなっちゃうんだよね。

でも子どもは子どもなりに成長し、自分は精一杯やってるって自信を持って欲しいな。(田)

ミニコミ誌「ぼけっと」
で毎月子育てに関する
地域情報を発信



子育てつて、結果はすぐに出不いんだけど、心の部分でやらなければいけないことを知らない人っている。私もそうだった。産んでからわかった。そういうところを
伝えられたらいいな。(田)

基本は家庭。

女性の社会進出と育児。その間で混迷し頑張っているお母さん。子どもが帰るところは家庭。いつの時代もそれは変わらないはず。短い時間であっても愛情ある接し方で親子のつながりを持つことはできると思います。(田)



家庭教育支援チーム
田村 恵子さん(42・豊科)
下が小学生までの3人の子育て中。

ちょっと声をかける、見守る。そんなの当たり前だよつていう近所の姿勢がうれしかったです。